

研究データ利活用協議会 (RDUF) 平成29年度第1回研究会
「デジタルアーカイブ」と「研究データ」の出会いシンポジウム
～データの保存と活用へ、ライブラリアンとアーキビストの挑戦
(平成29年11月6日)

「研究データ利活用協議会」 紹介

「研究データ利活用協議会」会長
武田 英明

研究データ利活用協議会

RDUF

Research Data Utilization Forum

研究データ利活用協議会（RDUF）について

【目的】

研究データ利活用に関する国内外の事例の共有などにより、我が国における研究データ利活用を推進することに寄与。

【経緯】

- ・ジャパンリンクセンターで行った「研究データへのDOI登録実験プロジェクト」(2014年10月～2015年10月)にて分野を横断した研究データの担い手が集まった。
- ・データ利活用に係る議論をさらに促進するため、2016年6月にボトムアップの組織として「研究データ利活用協議会」設立。

【会長】武田英明(国立情報学研究所 教授) 【副会長】村山泰啓(情報通信研究機構)

【会員】

80名以上 (+随時募集)

* 会費無料

【機関会員】

JST

NIMS

NII

NDL

NICT

千葉大学図書館

【事務局】

(+随時募集)

JST

*「機関会員」が、分担して下記ミーティング等を自律的に企画・運営

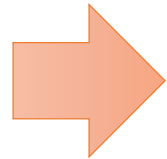
【実施内容】

研究会 (年3～4回程度)

MLを介した情報交換 (随時)

報告会 (年1回程度)

小委員会 (2017年から)



一般の研究データ関係者

オープンデータのマインド醸成

政策立案担当者

国の政策への反映



「研究データ利活用協議会」の会員

会費：	無料（活動に伴う交通費等は、自己負担。）
入会の要件：	・研究データの利活用に興味があること。

現在の会員数は、およそ100人！

会員リストは、以下で公開中！

http://japanlinkcenter.org/rduf/doc/JaLC_rduf_member.pdf

入会すると、メーリングリストを介して様々な情報を得ることができます。

「研究データ利活用協議会」の機関会員

RDUFの活動の趣旨に賛同し、RDUFの活動に対し次の貢献をすることが求められる。

- (1) 機関の構成員をRDUFの活動に参加させること
- (2) 研究会などの企画・運営を行うこと

【機関会員】

-  国立研究開発法人
科学技術振興機構
Japan Science and Technology Agency
-  国立研究開発法人
物質・材料研究機構
National Institute for Materials Science
-  大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構
国立情報学研究所
National Institute of Informatics
-  国立国会図書館
National Diet Library, Japan
-  国立研究開発法人
情報通信研究機構
-  千葉大学附属図書館

/アカデミック・リンク・センター

平成28年度の活動実績

項番	活動	開催日時	担当
1	公開キックオフミーティング	7月25日（月） 14:00-17:00	JST
2	研究会（第1回） （RDA Plenary 8 Meeting 等参加報告）	10月3日（月） 14:00-17:30	NDL
3	研究会（第2回） （第2回SPARC Japanセミナー 2016との共催）	10月26日（水） 13:00-17:00	NII
4	公開シンポジウム（サイエンスアゴラ内） 「研究データの利活用の未来－オープンサイエンスの実現手段－」	11月4日（金） 13:30-15:00	JST
5	（「第1回CODHセミナー Big Data and Digital Humanities」後援）	1月23日（月）	NII
6	研究会（第3回） 「科学データ研究会・WDS国内シンポジウム（第6回）」との共催	3月9日（木）10日（金）	NICT

平成29年度の活動

① 公開イベントや、研究会の開催

■RDUF公開シンポジウム

～オープンサイエンスを巡る世界の最新動向～

【日時】 2017年6月26日（月） 13:00～17:00 **<開催済み>**

【会場】 JST東京本部別館 1階ホール

【参加者数】 174名



研究データ利活用に関する世界の最新動向を紹介するとともに、参加者によるグループディスカッションにより小委員会設置のための課題の棚卸しを行った。

■第1回 SPARC Japan セミナー2017

研究データ利活用協議会が共催し、2017年9月13日に開催。

■第1回 研究会（RDA 10th Plenary, iPRES報告会）（11/6）

平成29年度の活動

② 小委員会の設置

○ 設置の目的

- ・共通するテーマをもった有志が課題解決に向けて意見交換
- ・その成果を指針やガイドラインの形で世の中に提言

○ 構成

- ・委員長(必須)、副委員長(任意)、委員

○ 活動内容

- ・グループ討議、全体討議、外部発表 等



○ 小委員会タイプ

→以下のタイプから選択することができる

- ① 関係者間で利用可能な提言・標準等の作成を目指す。
- ② 提言・標準等をつくるための基礎資料等の作成を目指す。
- ③ ステークホルダーを集めて、課題解決に向けて対策等を話し合う。

○ 成果物

次のいずれかを作成

- ・研究データの利活用を図るために必要となる方針、指針、基準、標準、提言、調査報告など
- ・その他、小委員会の活動内容をまとめたもの

○ 存続期間

- ・原則、1年間

○ 検討テーマ

→みなさまの提案から採択されます！

- 提案書はとってもシンプル！
(A4で、1～2枚程度です。)
- 提案受付中！

申請日 平成 年 月 日

R D U F 小委員会テーマ提案書(案)

1. 運営区分	3 ページの 1. 3. (3) 運営区分 のにある 3 区分から 1 つ お選び下さい。
2. テーマ	検討したいテーマを決めて記載ください。 小委員会名になります。(仮称でも構いません。)
3. 目的	本小委員会の活動目的の詳細を記載ください。
4. 成果物	12 ヶ月間で得る予定の成果物、アウトカムの概要を記載ください。
5. 成果のインパクト	期間終了後でも良いが、活動の成果を社会実装していくための道筋 やマイルストーンについてや、成果を社会実装したときに得られるイン パクトについて、記載ください。
6. 小委員会の活動計画	認定から 1 年間の活動期間中に実施する ・活動の形態(会議、各種イベント)や開催頻度 ・その間でのマイルストーン ・成果物創出やコミュニティ拡大に向けた方策
7. 初期委員 (所属)	R D U F 会員 人数は規定しませんが、できるだけ関係するコミュニティのメンバ ーと組んで、ご応募されることを推奨します
8. その他	自由記述 (今後集めるメンバーの想定など。)

A4 1～2 枚程度にまとめてください。

提案書の様式

○ 平成29年11月から活動中の小委員会

●データ管理計画

<発起人>

谷藤幹子（国立研究開発法人物質・材料研究機構 情報統合型材料開発部門（MaDIS）
材料データプラットフォームセンター(DPFC) 副センター長）

小賀坂康志（国立研究開発法人科学技術振興機構 知識基盤情報部 部長）

<概要>

DMPについて、共有可能な基本的考え方を整理し、DMPが扱うべき内容について、標準規格提言として取りまとめる。

●研究データへのライセンス検討

<発起人>

南山泰之（情報・システム研究機構国立極地研究所）

池内有為（筑波大学大学院図書館情報メディア研究科）

鈴木康平（筑波大学大学院図書館情報メディア研究科）

<概要>

研究データの利活用においては利害関係者がデータにライセンスを付与し法的な相互運用性を明確にすることが重要である。本小委員会では研究データにどのようなライセンスを付与するのが適切かを探る。

●国内の分野リポジトリ関係者のネットワーク構築

<発起人> 絹谷弘子（DIAS）

<概要>

研究データを安定的に公開する為には信頼できるデータリポジトリであることが重要です。我が国のリポジトリ関係者間で共通する問題と国際標準等の先進事例を集め整理する。

- RDUF小委員会に関する詳細は、RDUF webサイトでご確認ください。
<http://japanlinkcenter.org/rduf/>
(トップページ右側の「Topics」欄より、小委員会のコーナーへ！)
- イベント開催などの最新情報は、RDUF webサイトで発信しております。
<http://japanlinkcenter.org/rduf/>

研究データ活用協議会

RDUF

Research Data Utilization Forum

